

2014.9.27

◎珊瑚講演会の感想文返事とイタリア報告

一岩崎 望

珊瑚の講演会の感想文を拝見いたしました。珊瑚に興味を持っていただけたようで、嬉しく思います。

感想文に対する返事と近況をお知らせいたします。

-----

珊瑚の色についてですが、色の好みは時代と共に、また各国の文化により異なるようです。

日本では長い間、珊瑚と言えば赤でした。

明治に日本で漁獲するようになり、モモイロサンゴ、シロサンゴが採れるようになりました。その頃から桃色が珍重されるようになったと思います。

日本でもボケは珍重されています。

現在は真っ赤な「血赤」が高値です。

年季の入った職人さんに聞くと、修行中は血赤は下品な色とされており、彫刻の練習用に使ったそうです。

血赤が高値を呼ぶ理由として、インドで人気があり高値がついたからといわれています。

「ボケ」の由来については、珊瑚商がこんな安い珊瑚を採ってきて「このボケが！」と漁師を叱ったからだとの説があります。

安く買ったとき、「エンジェルスキン」と称して、ヨーロッパで高値で売ったと話が続きます。

また、パワーとしたぼやけた色に由来するなど、諸説あります。

ヨーロッパでは一般的に赤を好みますが、珊瑚から血を直接イメージすることはあまりないと思います

(根源では繋がっているのかもしれませんが・・・)。

イタリアの珊瑚商(複数)に聞くと、ジュエリーとしての他にお守りの意味があるといっていました。

なお、ロシアの人々は桃色を好むようです。

沼津港深海水族館では、宝石珊瑚(アカサンゴ、モノイロサンゴ、シロサンゴ)を飼育展示中です。

ポリプがきれいに開いた状態を間近に見ることができます。  
近くまで行かれることがありましたら、是非訪れてください。

<http://www.numazu-deepsea.com>

生物学的なことに関しては、以下をご参照下さい。

<http://es.ris.ac.jp/~iwasaki/sango/index.html>

9月9日から16日までイタリアに行きました。

日本とイタリアの珊瑚貿易についての歴史的な資料の収集、珊瑚貿易商へのヒヤリング調査を行ってきました。

Vicenzaoro Fall で珊瑚を扱っているブースで話を聞きました。

ナポリ近郊のトッレデルグレコ（珊瑚加工の中心地）から10店ほどが出展していました。

<http://fall.vicenzaoro.com/en/home>

Cazzaniga の二代目、三代目の話を聞きました。

高知で彫られた花のモモイロサンゴを中心に、その周辺を金で囲った作品は、和風を感じさせず Cazzaniga の作品そのものになっていました。

<http://www.cazzaniga.net/>

また、珊瑚作家ではありませんが、調査に協力してくれた Elio Ruschena の工房を訪問しました。

加工道具は日本で見つけているそうです。

<http://www.elioruschena.com/>

ジュエリー文化史研究会

<http://www.j-bunka.jp/>

※このメールアドレス(j-bunka@jj-craft.com)には返信できません。

※返信の必要のある方は、以下のアドレスにメールを送ってください。

日本宝飾クラフト学院 info@jj-craft.com

幹事戸倉博之 spina@precious-chroma.com